

令和4年度 東京情報大学総合情報研究所プロジェクト研究  
研究実績報告書

1. 研究課題名

佐原三菱館の修復意義に関する調査（川崎財閥の歴史に関する調査）

2. 研究組織

区分	氏名	所属・職名
研究代表者	堂下 浩	総合情報学部 総合情報学科・教授
研究分担者	井関 文一	総合情報学部 総合情報学科・教授
	伊藤 幸郎	総合情報学部 総合情報学科・非常勤講師
	酒井 航	大学院総合情報学研究科・大学院生

3. 連携先団体等

団体名	担当部署
香取市役所	生活経済部市民協働課
	総務企画部企画政策課
	教育部生涯学習課

4. 研究期間

2022年4月1日～2023年3月31日(5年計画の1年目)

5. 研究の目的

保存修理が進められてきた佐原三菱館は2022年4月に竣工された。同館は千葉県有形文化財に指定される歴史的な建造物である。しかしながら、川崎銀行の母体であった川崎財閥の資料は戦時下で焼失したことで、その詳細は十分に解明されていない。このため、銀行史の研究者の間でも川崎銀行は「幻の銀行」と称されている。そこで本調査では同館に関わる資料、特に同館を建設した川崎銀行、及び川崎財閥に関連する資料を収集するとともに、香取市から修復調査で新たに発見された資料も加えながら、川崎銀行が佐原に荘厳な支店を建設した理由を解明する。さらに川崎銀行及び川崎財閥の経営実態に関しても解明していく。

6. 研究報告

本年度は特に、1) 川崎財閥を興した初代・川崎八右衛門に関する資料を収集・分析する、2) 川崎財閥が消滅した経緯を調査する、という観点から調査を進めた。その成果として1)に関しては、共同調査を行っている久信田喜一氏（茨城地方史研究会・会長）か

ら川崎財閥の基礎を築いた初代・川崎八右衛門に関する資料提供を受けながら、資料の検証に当たった。その成果は後述【成果の公表】に示す通り、公開講座における久信田氏による講演により公表された。

また、2) に関しては、本学の非常勤講師である伊藤幸郎氏と共同調査を進めながら、川崎財閥の中核機能を果たしていた第百銀行（旧・川崎銀行）が戦時経済下で三菱銀行に吸収された背景を研究した。この成果はパーソナルファイナンス学会において、以下の通り発表された。

- ・発表者： 伊藤 幸郎（東京情報大学 総合情報学部・非常勤講師）、  
堂下 浩（東京情報大学 総合情報学部・教授）
- ・タイトル： 戦時経済下における銀行の合併経緯に関する研究 ―合併談から  
紐解かれる第百銀行に着目した考察―
- ・発表先： パーソナルファイナンス学会 第22回全国大会
- ・発表日時： 2023年2月18日
- ・掲載URL： [https://www.ibi-japan.co.jp/japf/meeting/dl/no22\\_meeting\\_summary\\_report.pdf](https://www.ibi-japan.co.jp/japf/meeting/dl/no22_meeting_summary_report.pdf)

なお、1) に関しても早稲田大学クレジットビジネス研究所の紀要として今後、学術発表する予定である。

## 7. 成果の公表

2023年2月16日に東京情報大学・香取市共催による地域連携フォーラム2022『佐原三菱館を建てた川崎財閥を知る～初代・川崎八右衛門の足跡～』を開催した。本フォーラムは、「佐原三菱館」の前身である旧川崎銀行佐原支店の歴史を紐解きながら、公開講座を通して、川崎財閥が佐原の経済を重視した理由や、川崎銀行佐原支店が三菱銀行佐原支店となった経緯などを知ることで、香取市民が佐原三菱館の歴史的重要性を理解し、有形文化財の保存について考える機会となった。当日は香取市を中心とした市民の方々及び関係者を含め、約100名が参加し、地域連携フォーラム開式にあたり香取市の伊藤友則市長よりご挨拶の言葉をいただいた。

上記フォーラムの報告は以下の通り発表された。

《公開講座の報告（情報大）》

東京情報大学・香取市 地域連携フォーラム2022

「佐原三菱館を建てた川崎財閥を知る ～初代・川崎八右衛門の足跡～」

<https://www.tuis.ac.jp/topics/forum20230216renk-katori/>

《公開講座の報告（香取市）》

東京情報大学・香取市 地域連携フォーラム2022を開催しました

佐原三菱館を建てた川崎財閥を知る

<https://www.city.katori.lg.jp/smph/living/ahiminkatsudo/oshirase/tiikirenkeiforamu.html>

## 8. 総評

### 香取市・市民協働課

東京情報大学と香取市は、平成 24 年に地域連携協定を締結し、大学には香取市を教育・研究活動のフィールドとして活用いただいております、市では市民協働のまちづくりを推進するため、お互いが協力・連携してさまざまな活動に取り組んできました。

香取市では千葉県有形文化財に指定され、歴史的な建造物である「佐原三菱館（旧・川崎銀行佐原支店跡）」の保存修理工事が竣工し、2022 年 4 月から一般公開が始まりました。そこで、2023 年 2 月 16 日に東京情報大学・香取市共催による地域連携フォーラム 2022『佐原三菱館を建てた川崎財閥を知る～初代・川崎八右衛門の足跡～』を開催しました。当日は香取市を中心とした市民の方々及び関係者を含め、約 100 名にご参加いただきました。本フォーラムの公開講座を通して、川崎財閥が佐原の経済を重視した理由や、川崎銀行佐原支店が三菱銀行佐原支店となった経緯などを知ること、香取市民が佐原三菱館の歴史的な重要性を理解し、有形文化財の保存について考える機会となりました。

つきましては引き続き、香取市の文化財を香取市民がいつその愛着を深めていただくための機会創出を、御学と協力しながら進めていく所存です。引き続き、御学からのご支援を宜しくお願い致します。